会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（２）教職員の資質能力向上の推進　①効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第3回全国職業教育協議会 |
| 開催日時 | 令和5年12月15日（金）15:00～17:00 |
| 場所 | 学校法人麻生塾　10号館大会議室 |
| 出席者 | 事業責任者：林　宏治　　　　　　　　　　　　　　　　計1名委　　　員：岡村　慎一、成底　敏、五十部　昌克、木村　隆浩泉田　優　 　　　　　　　　　　計5名請負業者　：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　計1名オブザーバ：足立　隆　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計8名 |
| 議題等 | 1,各事業の進捗報告⚪︎事業推進委員会報告（五十部）・スケジュールに関しては、若干調査が遅れている。・12月21日に全てのヒアリング調査を終了する。・12月19日に次会委員会を実施予定である。・1月末までには取りまとめを行う。・年度末のは5つの報告書を作ることとしている。・2月6日に最終の委員会を設けている。このタイミングで全てを完了することとしている。⚪︎教職員研修プログラム構築事業（成底）・4事業を実施している。・e-learningのポータルサイトを企画しているが、全専研側との調整が必要としている。岡村委員、林委員と調整していきたいと思う。・専門学校教員概論は、入社1年目〜3年目の者を対象として、キャリアアイデンティやキャリアオーナーシップを身につけるためのプログラムを作成する。・本年度は、キャリアに関する調査の実施を終了している。・本年度はサンプル教材まで作成する予定。・成果物は、サンプル教材とキャリアモデルと考えている。・委員会はあと2回。この2回で決定していく予定。・授業改善サポーター養成講座開発委員会では、授業コンサルテーションができる人材を育成するプログラム開発は必要としている。授業改善やコーチングなど行える人材育成である。・また、授業改善サポーター同士がコミュニケーションできる仕組みを構築する。・養成講座は3回を1つのプログラムとし、1回目は対面。2回目はリフレクション。3回目は1月にリフレクションを実施することとしている。・熊本大学の合田先生に講座を実施していただいている。・e-learningシステムは熊本大学の仕組みを構築する必要があると考えている。・本年度は、授業改善サポーターの要件、カリキュラム・シラバス、リクレクション取りまとめを行う予定。・産学連携推進員育成講座開発は、専門学校が企業連携を積極的に推進する人材育成を要請するためのプログラムを開発している。・現在は、人材要件を明確にするための視察調査を実施し、サンプル講座開発することを最終目的としている。・研修実施委員会では4つの研修を実施する。詳細は泉田委員からお願いします。・e-learningについては、どのような形で構築するのか。ーーーーーーーーー意見交換・一部のサンプル教材を作る予定としているが概論はどのようなものを開発する予定なのか（林）・教員としての役割等について明確にしていく。（飯塚）・授業改善サポーターのコンテンツの代わりになるようなものは考えているのか（林）・合田先生が持っているコンテンツを利用してやっている状況であり、講座を担当する者を育成してほしい。（成底）・今後の方向性を決めていかないといけないと感じている。（林）・産学連携推進員については、何ができる者がターゲットとなっているのか（林）・現在は、推進員としての資質・要件を取りまとめることとしている。次年度以降は、そのプログラムについて構築していく。（成底）⚪︎教職員研修実施委員会（泉田）・FD・SDの研修及び職マネ・自己点検評価の4本を実施している。・FD・SDは、終了。・職マネ・自己点検評価については募集を終了し、1月に東京・福岡にて実施を予定している。・FD・SDの受講者は東京・福岡ともに27人。・事後のアンケートをみると大変良好で有意義なものであった。・職マネは三菱総研の調査内容を報告していただくことと、日本電子、上尾中央から事例紹介おしていただく。・自己点検・評価のセミナーは、過年度に開発した評価モデルの進化バーションを紹介することを考えている。・また、職マネと自己点検・評価は、オンラインで実施する予定であったが、オンデマンド発表に変更することとしている。ーーーーーーーーー意見交換・オンデマンド配信に対する質疑についてはどのように取り扱うのか（林）・現状としては、計画していない。今後はこうした状況を取り入れていきたいと思う。（泉田）⚪︎文科省委託事業の問題点と解決方法（林）・委託事業のメリットは、1校ではできなことができること。デメリットは、委員会の負担が大きい。・全専研として今後も継続していくのかの問は、収益性に関することは求めていないが赤字は難しい。・委員会メンバーのタスク分散や人員を強化することが重要である。・委員排出をした学校には何らかのインセンティブを出していくことも考えたい。・通常の学校業務と委託事業は業務分掌を明確にしてほしい。・そもそも理事会への課題共有について強化してほしい。ーーーーーーーーーー意見交換・理事会とのコミュニケーションとの部分で、理事から担当者を決めたらどうか。（成底）・文部科学省委託事業だけでなく全専研の組織自体を全体的に考えていく必要がある。（林）・本件に関しては、1月あたりに再度検討していく必要がある。（林）⚪︎予算執行について（飯塚）・現状は、95〜97％程度の執行になることを想定している。・会場費が高くなっていることが少し気になる。・旅費については、コロナ以降で費用面で高騰している。⚪︎日程等・次回委員会日程令和6年2月20日（火）15:00～17:00 |
| 配布資料 |  |

以上